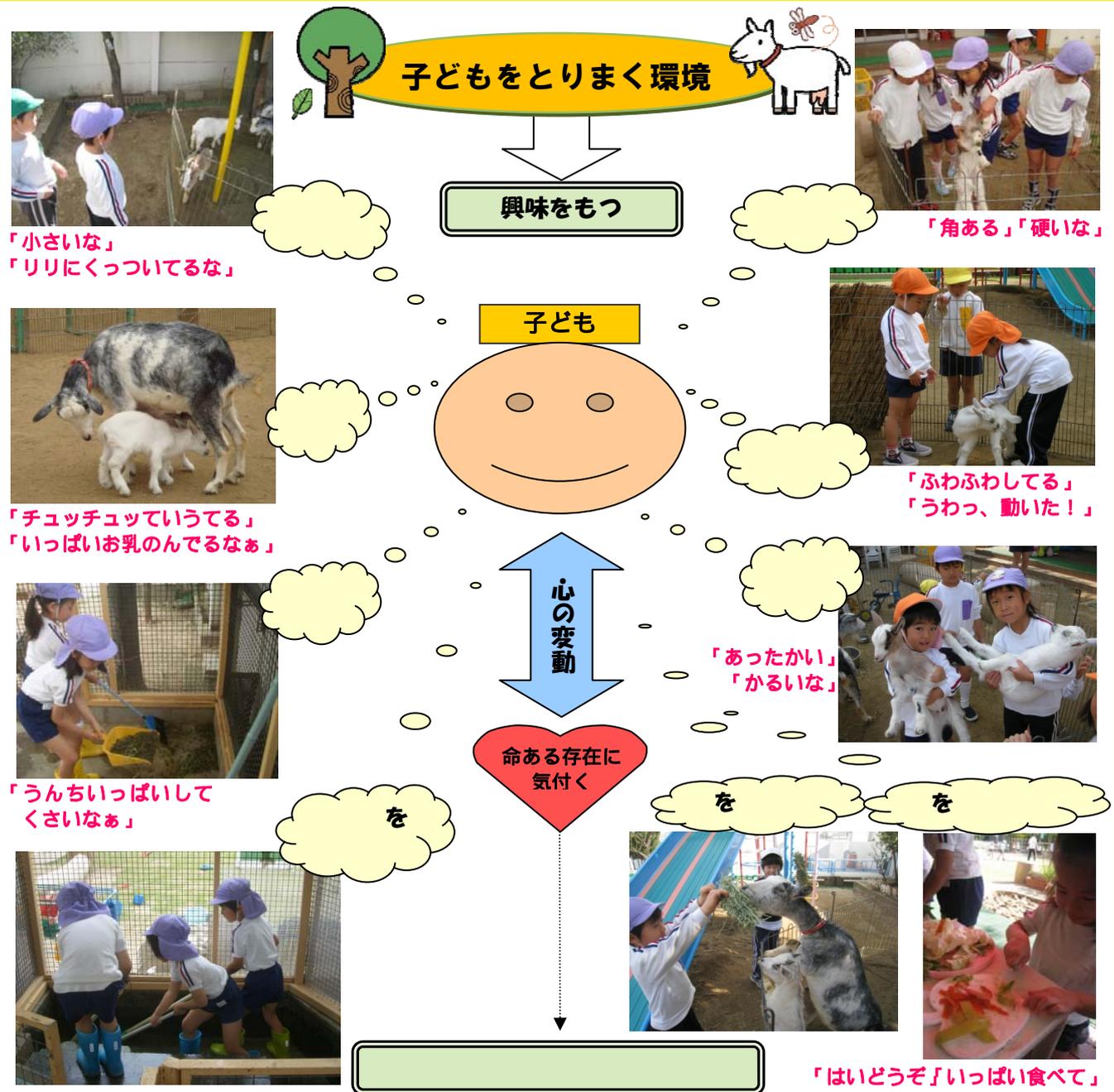


命ある存在に気付く

常磐会短期大学付属茨木高美幼稚園（大阪府茨木市）

[5 歳児]

園で飼育しているヤギが出産し、記録したビデオをみんなで見た。リリ（母ヤギ）が大きな鳴き声を出して懸命に産む姿を見ながら「リリ、頑張れ！！」と自然に応援が始まり、そして生まれると大きな拍手が起きた。親子の触れ合う様子、乳を飲む姿、寄り添って寝ている様子などを見守るのが子どもたちの日課になった。



まとめ

生き物が好きで自分から積極的に関わる子がいる反面、動物や昆虫を苦手とする子もいる。一人ひとりの興味の大きさはあるにしても、3歳から5歳になる過程で子どもの興味は広がり大きく成長していく。命ある存在に気付く、それを思いやる気持ちが育つ。生まれた子ヤギを母ヤギが愛おしくなめる姿や何とか立ち上がろうとする子ヤギを見て、子どもたちも愛おしく感じたのだろう。そして、生き物との関わりを密に経験してきた5歳児が先頭に立ち、3・4歳児に自分たちの知っていることを伝えたり、さらに生き物との関わりを通して疑問に思ったことを調べたり発見したりすることで、より心が動かされることとなった。

みどころ

4歳の頃からずっと大切に世話をし、いつも身近にいるヤギのリリは、子どもたちにとって大事な家族のような存在になっているのではないのでしょうか。そのリリの出産を見届けたり、母ヤギと子ヤギが睦まじく触れ合う姿を身近に見たりしながら、子どもたちの心が揺り動かされていきます。命を大切に思う気持ちと同時に親子の絆や慈しみの心など、「科学する心」の育みにつながる貴重な体験になっています。